

修士論文（要旨）

2012年1月

特別養護老人ホームにおける機能訓練指導員の取り組みとその意図するもの

指導 杉澤秀博教授

老年学研究科

老年学専攻

210J6003

植 田 大 雅

目 次

第 1 章 研究の視点

1. 本研究の背景と動機
 - 1) 重度化が進む特別養護老人ホームの入居者
 - 2) 特養における機能訓練指導員の在籍状況
 - 3) 特養における機能訓練指導員をめぐる課題
2. 先行研究の到達点と課題
 - 1) 先行研究の検索方法
 - 2) 先行研究で明らかとなっていること
 - 3) 先行研究における課題
3. 本研究の目的

第 2 章 研究方法

1. 調査対象者
2. 調査方法
3. 分析方法
4. 倫理的配慮

第 3 章 研究結果

1. ストーリーライン
2. カテゴリー, サブカテゴリー, 概念の詳細

第 4 章 考察

1. 他者との関係性を意識した取り組み
2. 生活の中に機能訓練を位置付ける
3. 周囲の人との心理的距離の近さ
4. 本研究の限界と今後の課題

<文 献>

図表

付録

1. 研究の目的：

特別養護老人ホーム（以下・特養）は、利用者の重度化が進んでいる。生活の場である特養においては、機能訓練指導員の配置が義務付けられているが、利用者の訓練目標、目的をどのように定めたらよいかわからない、何をどのように取り組んだらよいかわからない等の思いを抱いている機能訓練指導員が多い。以上の問題関心から、本研究では、特養に勤務する機能訓練指導員が日頃どのような考えをもって仕事に取り組んでいるのか、その取り組みの意図するものは何かを明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法：

1) 対象と調査方法：対象者は特養に常勤専従で勤務する機能訓練指導員で、協力の得られた8名であった。調査方法は半構造化面接であり、1人あたりの面接時間は59分～77分であった。質問は、認知症や看取り介護等重度化する特養利用者に対する、①日頃の業務内容、②他職種との関わり、機能訓練指導員の業務を超えての活動、③仕事への満足度・達成感、④仕事上の困難、であり、さらに、⑤特養に機能訓練指導員として勤務するようになった時期、きっかけ、を項目として設定した。面接内容は承諾を得てICレコーダーに録音した。

2) 分析方法：M-GTAを用いて分析した。分析テーマは「認知症や看取り介護等重度化する特養利用者に対する機能訓練指導員の取り組みとその意図するもの」とし、分析焦点者を「特養に常勤専従で勤務し利用者に機能訓練を提供している機能訓練指導員」とした。概念化の作業を進めるとともに経験豊富なチューターの指導の下で行った。

3. 結果：

分析の結果、11の概念、2つのサブカテゴリー、3つのカテゴリーが生成された。3つのカテゴリーとは、【他者との関係性を意識し、仕事の内容を決定する】【生活の中に機能訓練を位置づける】【周囲の人との心理的距離の近さ】であった。【他者との関係性を意識し、仕事の内容を決定する】は、以下の2つのサブカテゴリーから生成された。1つが『他者との関わりを意識して機能回復を抑える』であり、このサブカテゴリーは、活動性が向上した認知症利用者などの対応等の「他職種の負担増大を考え機能回復を躊躇する」、転倒事故を避けたい等の「機能回復よりも安全を求める家族の存在」という2つの概念から生成された。他の1つは『他者を利用して機能訓練の取り組みを実現』であり、これは「他職種の仕事に機能訓練の要素を位置づける」「機能訓練の立場から他職種の仕事の改善に貢献する」「家族の協力を得て機能訓練」という3つの概念から生成された。

【生活の中に機能訓練を位置づける】というカテゴリーは、「利用者の生活がマンネリ化しないように工夫する」「日常生活の中での活動を機能訓練として位置づける」「看取り介護期は疼痛緩和や呼吸管理など安楽を目標としてケアする」という3つの概念から生成された。

【周囲の人との心理的距離の近さ】というカテゴリーは、「マンツーマンでの関わりで利用者の不満やいらいらを受け止める」「利用者の特性を吸い上げ職員に伝える」「熱心な家族には応えたい」という3つの概念から生成された。つまり、機能訓練指導員に

は、利用者、その家族そして職員といった周囲の人のとの間で、心情を理解し、その人たちに貢献しようという思いがあった。

以上3つのカテゴリ間の関係は、次のように示すことができた。【他者との関係性を意識し、仕事の内容を決定する】【生活の中に機能訓練を位置づける】といった活動を展開できるのは、【周囲の人との心理的距離の近さ】といった他者との良好な関係性を構築できていることにある。

これらの結果は、資格・前歴の職種による差はみられなかった。

4. 考察：

本研究では、第1に、特養における機能訓練指導員の取り組みが他の職種との関係の中で位置づけられていることが示唆された。第2には、訓練室で行う機能訓練というより生活行為を機能訓練の機会として利用し、位置づけた取り組みが行われていることが示唆された。第3には、以上のような機能訓練の手法の部分だけでなく、機能訓練指導員が利用者と1対1で長時間にわたり関わることのできる職種であり、そのことが周囲の人への共感、ニーズの理解といった心理的な距離の近さを生み出し、機能訓練の工夫やあり方の創造・実践へとつながったことが示唆された。今後の課題として、第1に、以上のように特養における機能訓練は機能訓練指導員が単独で行うものでないことから、他職種に対する調査が必要である。第2に、施設によって機能訓練指導員の取り組みに差がある可能性もあるため、異なる施設の指導員を対象とした調査を行い、結果の妥当性を検証することも予測されるため他地域の調査を行うことが必要である。

<文献>

- 1) 近藤宏・乗松利幸・安田英俊・他：あん摩マッサージ指圧師の機能訓練指導員の育成のための調査研究．医道の日本，65（3）：162-169（2006）
- 2) 細井俊希・丸山仁司：特別養護老人ホームでの常勤理学療法士によるリハビリテーションの効果—QOL への影響について—．理学療法科学，24（2）：173-178（2009）
- 3) 古木名寿登・佐藤照樹・幡野克仁・他：特別養護老人ホームにおける理学療法指導の取り組み報告．東北理学療法学，19：26-32（2007）
- 4) 近藤宏・乗松利幸・富安猛・他：盲学校卒業生および視覚障害あん摩マッサージ指圧師の機能訓練指導員の育成と雇用促進のための基礎研究（第2報）機能訓練指導員の具体的業務内容について．理療教育研究，29（1）：1-13（2007）
- 5) 古西勇・黒川幸雄：指定介護老人福祉施設における理学療法士の役割．理学療法学，31（生活環境支援系理学療法24）：（2004）
- 6) 佐々木美智子・王治文：指定介護老人福祉施設における機能訓練の取り組みと今後の課題．リハビリテーション科学，東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科紀要，4（1）：55-61（2008）
- 7) 小林規彦：介護老人福祉施設における機能訓練の現状と課題．厚生指標，56（2）：27-32（2009）
- 8) 木下康仁：グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践—質的研究への誘い．弘文堂，東京（2003）
- 9) 木下康仁：ライブ講義 M-GTA 実践的質的研究法 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべて．弘文堂，東京（2007）
- 10) 大淵哲也：できる!! ケアマネになるためのリハビリテーションヒント集(第4回) 特養やデイの「個別機能訓練加算」って?. 月刊ケアマネジメント，22（9）：52-53（2011）
- 11) 菊地雅洋：人を語らずして介護を語るな。—masa の介護福祉情報裏板．ヒューマンヘルスケアシステム，東京（2011）